

表2 速やかな専門医療機関受診を考慮する所見(暫定)

QS パターン	胸壁上右隣の誘導に初期Rがある時のQSパターン
	I、II、V6、(IIIおよびaVF)のいずれかにみられる場合
	V1～V4 のいずれにも見られる場合
明らかな右室肥大所見	点数制による右心室肥大判定基準で5点以上
明らかな左室肥大所見	点数制による左心室肥大判定基準で5点以上
高度ST低下	ST-J降下 ≥ 0.2 mVでT波陰性または2相性で陰性部分 ≥ 0.5 mVがみられる。(I、II、aVL、aVF、V1～V6 のいずれか、T波はV3～V6)
左側胸部誘導の陰性T波	V3～V6誘導(小学生ではV4～V6誘導)にみられる場合
第2度房室ブロック	Mobitz型
	2:1ブロック
第3度房室ブロック	高度房室ブロックを含む
完全左脚ブロック	該当する心電図所見
多形心室期外収縮	心室期外収縮の波形が多形性を示す場合
2連発以上の心室期外収縮	心室期外収縮が2連発以上連続して出現する場合
R on T心室期外収縮	心室期外収縮がR on T型をしめす場合
後続心拍にT波異常を伴う心室期外収縮	心室期外収縮が後続心拍にT波の異常所見をしめす場合
心室頻拍	多形心室頻拍を含む
心房細動・心房粗動	該当する心電図所見
上室頻拍	該当する心電図所見
洞房ブロック	該当する心電図所見
QT延長	接線法で測定しFridericia補正したQT時間が次の値を超える場合 小学1年生男女：0.430、中学1年生男女：0.445 高校1年男：0.440、高校1年女：0.455
Brugada様心電図	右側胸部誘導V1、V2、V3のいずれかで、J点で0.2mV以上STが上昇し、かつST-T部位がCoved型またはSaddleback型をとるもの
その他	調査票などで上記に準ずる突然死の可能性のある所見あるいはその既往があると考えられる場合